

カ 果



木にくだものになっている形。

種 芽 木 花 実(最後)

くだもの(果実)

はて(最後)

はたす(仕とげる)

注 結果は“^み実(果実)を結ぶ”意で、原因があって引き起こされる事がらを言うのに使われる。この原因と結果との関係を“因果”と言う。

カ 菓

果が本義(くだもの)以外の用法(はたす)に使われるようになり、くだもの専用に作った字。𠄎は植物の意

くだもの **例** 水菓子

お菓子 **例** 茶菓・製菓

注 菓子は元来くだものの称だが、今はケーキの称。水菓子という呼び方だけが、本来の意味を伝えている。

カ 課

仕事を果たすように言いつける

わりあてる **例** 課題・課税・日課

仕事の区分 **例** 会計課・課目

カ 夥

くだものが多く木になっている

おびただしい **例** 夥多

カ 顆

頭のように丸い果実

つぶ(丸い形) **例** 顆粒

カ 踝

足の中で果実のように丸くふくらんだ部分

くるぶし

カ 裹

果実を衣(着物)の中につつむ

つつむ **例** 裹足・裹頭

注 衣の中に果を入れた字で、裹(うら)と混同しやすいので注意。

ラ 裸

つつまれた果(裹)が外に出ている形

むき出し **例** 裸出

はだか **例** 裸体・赤裸

注 果の音が変わってラ。 **例** 格 カク 絡 ラク 楽 ガク 楽 ラク 京 キョウ 涼 リョウ